

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	M.H	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	4 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
コース名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 8 月 12 日～ 2026 年 9 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は主に Reading & Writing と Speaking & Listening に分かれており、金曜日にはレベルに関係なく全員で受ける特別授業が行われた。どの授業も先生の話聞くだけでなく、グループワークや発表など、学生同士で英語を使う機会が多かった。

Reading & Writing で特に印象に残っているのは、一つの文章を 3 つに分け、それぞれが担当部分だけを読み、内容をグループのメンバーに英語で説明する授業である。自分が読んでいない部分については他のメンバーの説明を聞き、全員の情報を組み合わせながら問いに対する答えを考えた。中でも、アメリカ文化を風刺的に描いた「Nacirema」を扱った授業は、文章自体の意味を理解するだけでなく、それを英語で相手に説明する必要があり、最も苦戦した。クラスには日本人も多く、日本語を使いたくなる場面もあったが、なるべく英語だけで伝えることを意識した。また、二つのものの共通点や相違点を整理して文章を書く課題も多く、比較表現を実際の文章の中で使用することで、ライティング力を身につけることができた。

Speaking & Listening では、映画『マイ・インターン』を用いたリスニングが特に難しく、印象に残っている。この授業ではクラスの半数ほどが他国からの学生で、先生もできるだけ異なる国の学生同士でグループを組めるようにしてくれた。そのため、リスニング問題について相談したり、自分の意見を伝えたりする際にも英語が必要となり、実践的なコミュニケーションを経験できた。また、料理の作り方や将来の自分へのメッセージを英語で録画して提出する課題もあった。提出した動画をクラス全員でポップコーンを食べながら鑑賞する時間は、最初は恥ずかしかったが、最終的には楽しく、思い出に残っている。

さらに、金曜日の特別授業では、ヘルスケアをテーマにクイズやグループでの意見交換を行った。特に印象的だったのは、睡眠についてキャンパス内の現地学生に街頭インタビューを行った授業である。英語で知らない人に話しかけることには緊張したが、多くの学生が快く応じてくれ、自分が思っていた以上に会話ができることが嬉しく、自信にもつながった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、文法や単語の知識だけでなく、それらを実際のコミュニケーションの中で活用する力を身につけることができた。比較級など、授業で扱った文法や単語には日本ですでに学んだものも多かったが、実際に文章を書いたり、相手に説明したりすることで、知識として「知っている」と、実際に「使える」とには大きな違いがあると実感した。

特にグループワークでは、自分の考えや読んだ文章の内容を英語で説明する必要があり、分からない単語があっても、知っている単語に言い換えたり、具体例を加えたりして伝える力が身についた。文法的に正しい文章を作ることだけにこだわるのではなく、「どうすれば相手に伝わるか」を考えることが、コミュニケーションでは重要だと学んだ。先生の説明やマイインターンのリスニングの際に表現を意識して聞くことで、文法を学ぶだけでは実感できていなかった言い回しなども学ぶことができた。

また、他国の学生との意見交換を通して、同じテーマでも文化や生活環境によって考え方や当たり前が異なることを知った。英語力だけでなく、相手の意見を理解し、自分との違いを受け入れながら対話することの大切さも学ぶことができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

日本の大学では、授業中に分からないことがあっても、その場で質問したり発言したりすることをためらってしまうことが多かった。しかし、今回の授業では、英語が聞き取れなかったり、先生の説明をクラス全体が十分に理解できていなかったりする場面もあり、自分から先生に質問し、理解した内容をクラスメイトに共有することに挑戦した。最初は英語で質問することに緊張したが、勇気を出して聞いてみることで、うまく伝わらない経験も含めて、自分に足りない表現を知り、自然と新しい言い回しを身につけることができた。また、会話を重ねる中で、「文法的に正しい英語を話さなければならない」と考えるよりも、知っている単語や表現を使いながら「どうすれば相手に伝わるか」を考えるようになった。授業を通して、間違いを恐れず自分から発言する姿勢が身につく、英語でコミュニケーションを取ることへの抵抗も小さくなった。積極的に学ぶこと、間違いを恐れずにコミュニケーションを学ぶ姿勢や気持ちを学べた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で得た経験を、今後は英語学習だけでなく、日本での大学の授業にも生かしていきたい。これまでは分からないことがあっても授業中に質問することをためらうことが多かったが、今回、自分から質問し、クラスメイトに共有することで、周囲の理解にもつながることを実感した。そのため、今後は疑問をそのままにせず、積極的に質問や発言をしながら、主体的に授業に参加していきたい。また、英語についても、文法的な正しさだけを意識するのではなく、「どのようにすれば相手に伝わるか」を考えながら実際に使う機会を増やしたい。留学中に感じたリスニング力の課題にも継続して取り組み、身につけた積極性を失わずに学業を進めていきたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	M.K	学部・学科	国際教養学部国際教養学科都市学系
学 年	二年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 08 月 12 日～ 2026 年 09 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

リーディング＆ライティングの授業(以下 R&W)・リスニング＆スピーキングの授業(L & S)・スピーキング＆プレゼンテーションの授業(S & P)・そして教養を身につける授業(EA)の 4 種類が曜日ごとに振り分けられた。月曜日から木曜日は、事前に受けたレベルチェックテストによってクラスが決まり、1 限が R&W、2 限は月水が L & S、火木が S & P の授業という時間割であった。そして金曜日にプログラム参加者全員で EA を受けた。レベル別のクラスは、日本人 5 人、アフガニスタン人、サウジアラビア人 2 人の構成だった。R & W の授業は、クラスを 2 つのグループに分け、グループワーク中心に、単語の一致問題や長文の理解度問題に取り組んだ。先生からはとにかくお互いに話し合って考えるように言われた。また、授業の大きな部分を占めていたのがエッセイだった。教科書に記載された記事をもとに、先生が設定したお題に対して自分の意見を書き、フィードバックをもらった。毎授業必ず課された演習だった。テーマは「食事とグローバル化(Food globalization)」「ビジネス学とエンジニア学(Business and engineering)」「遠隔学習(Distance learning)」など、現代に即した内容であった。それぞれのメリット・デメリットを挙げ、今後どうなると予想されるか、将来のためにどうすべきかなど自分の意見を述べる形式だった。宿題は週一回木曜日に、単語と意味を一致させる問題、長文理解、単語穴埋め、文法問題などが一つにまとまっているものが出された。すべて長文の内容に即した問題であるため、内容理解が深まるようになっている。週明けの月曜日に、スマホやテキスト、ノートさえも見ずに、自分の記憶だけで宿題の長文のサマリーを書く演習があった。L & S の授業は、動画を聞いて分かったことをまとめたり、ディベートに取り組んだりした。すべての授業の中で最も難しい授業だと感じた。授業の初めには、肩慣らしとして先生が提示した小テーマについて自分の意見を伝える時間があった。S & P の授業では、2 チームに分かれて、サンディエゴの魅力を伝える内容を考えた。選んだトピックと自分との関係性や繋がり、サンディエゴ内の有名なスポットや自分が実際に訪れて感じた事などをまとめて、3 分ほど話せるように構成した。EA は、食事に含まれるカロリーや睡眠時間など、生活にまつわる教養をクイズや校外学習を通して体験する授業であった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

4 技能それぞれの授業で、英語の知識だけでなく、文章を構成する力や自分の意見を伝える力、他者と協力して学ぶ力など、様々な能力を身につけることができた。R&W の授業では、英語でエッセイを書く際の基本的な構成や表現方法について学んだ。特に日本のレポートとは異なり、「HOOK」と呼ばれる読者の興味を引く「つかみ」を重視する点が印象に残った。クリエイティブな HOOK を最初に入れることで、その後の文章にも興味を持ってもらいやすくなりことを学び、文章の書き方に関する新しい視点を得ることができた。また、L&S の授業では、その場で相手の意見を聞き、それに対する反論を短時間で考えて発言する活動を行った。これを繰り返すことで、相手の話を正確に聞き、自分の考えを整理して伝える力を身につけることができた。S&P では改めてサンディエゴの魅力を実感するとともに、それをどうリスナーに伝わりやすく工夫できるかを考えられた。そして、EA の授業では、毎回異なるメンバーとグループワークを行う形式だったため、普段あまり話さない人とも積極的にコミュニケーションを取る機会が多くあった。これらの授業を通して、知識を得るだけでなく異なる考えを持つ人と協力しながら学ぶ姿勢や、自分の意見を積極的に発信する力を身につけることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は自分の意見や思っていることを表現することに抵抗があった。ましてや母国語ではないため考えをうまく伝えられないと思い込んでいた。しかし、授業で英語を使って意見を伝えたりディベートを行ったりする中で、文章が完璧でなくてもまずは自分の思っていることを伝えようとする姿勢が大切だと感じるようになった。頭の中で考えていえるだけでは相手には伝わらないため、間違いを恐れずに自分から発言することを意識するようになった。また、知識がたくさんあってもそれだけで人とコミュニケーションが取れるわけではないことにも気づいた。相手の話を聞き、自分から質問したり会話を続けようとしたりする積極性が必要だと感じた。さらに、英語を母語としない学生が、約2年間の英語学習で自分よりも流暢に英語を話している姿を見て、日本人も英語を学ぶ方法や学習への向き合い方を見直す必要があると感じた。今回の留学を通して、英語力だけでなく、積極的に伝えようとする姿勢の大切さを実感した。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

約1カ月の留学生活を通して、英語で話されている内容はある程度聞き取れるようになった一方で、自分が伝えたいことをすぐに英語で表現することにはまだ難しさを感じている。そのため、普段から自分が思ったことや考えたことを言葉にする習慣を身につけ、それを英語でも表現できるよう練習していきたい。日常の中で英語に触れる機会を意識的に増やし、留学で得た英語力を一時的なものにしないようにしたい。学業においては、今夏の留学で培ったライティング・リーディング・リスニングなどの技能がどれほど身についているのか確認するため、英語資格試験を受けて客観的に確認したい。試験の結果から自分の得意な分野、不足している部分を把握し、今後の英語学習に繋げることで学習へのモチベーションを高めていきたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	K.K	学部・学科	国際商学部
学 年	2	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
コース名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 8 月 12 日～ 2026 年 9 月 12 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

留学中に履修したスピーキング&リスニングの授業では、英語を聞き取る力と自分の考えを英語で表現する力を同時に伸ばすことを目的とした活動が毎回行われた。授業では十分程度の英語動画を視聴し、その内容に基づいた穴埋め形式のリスニング問題に取り組んだ。聞き取った英語を書き写すだけでなく、文脈に合う単語を考える必要があり、語彙力や理解力も求められた。特に印象に残っているのは、長期間ランニングを続ける人を追った動画である。この動画では Grit「やり抜く力」という単語を学び、困難に直面しても諦めずに努力を続ける姿勢について考えるきっかけとなった。さらに、継続の大切さについて英語で意見を述べる練習も行い、動画から得た価値観を自分の言葉で表現する貴重な経験となった。

また、スピーキングの活動として、二人一組で行う単語当てゲームがあった。一人が指定された単語を見ない状態になり、もう一人がその単語を英語で説明する。ただし、説明の際には使用してはいけない禁止ワードが設定されており、それらを避けながら工夫して伝える必要があった。このゲームを通して、知っている単語を言い換える力や、相手に伝わりやすく瞬時に説明する力を養うことができた。

一方、リーディング&ライティングの授業では、絶滅危惧種をテーマに、各国の学生が自国の動物や環境について紹介し合い、多様な視点に触れる機会となった。毎回の授業ではテーマが与えられ、序論・本論・結論という構成を意識しながら英語で短いエッセイを書く練習を繰り返した。書いた文章はクラスメートの前で発表してフィードバックを受けることで、自分の考えを論理的に整理し、英語で伝える力を養った。

これらの授業を通して、聞く・話す・読む・書くという英語の四技能をバランスよく伸ばすことができた。さらに、言語スキルだけでなく、異なる文化背景を持つ学生との意見交換を通じて、物事を多角的に捉える姿勢も身についた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

留学中の授業を通して、英語の四技能に関する実践的な力と多角的な視点を得た。スピーキング&リスニングの授業では、英語動画を視聴して穴埋め問題に取り組み、文脈に合う単語を考えることで、語彙力や文脈から意味を推測する力が養われた。また、動画を通して新しい単語や表現を学び、その内容について自分の意見を英語で述べる練習を重ねることで、自分の考えを英語で表現する力も得られた。さらに、二人一組で禁止ワードを避けながら単語の意味を説明するゲームでは、言い換える力や瞬時に説明する力が身についた。リーディング&ライティングの授業では、序論・本論・結論という構成を意識して短いエッセイを書く練習を繰り返し、論理的に考えを整理して書く力を習得した。発表後のフィードバックを通して、分かりやすく伝える工夫も学んだ。加えて、絶滅危惧種をテーマに各国の学生が自国の動物や環境を紹介し合い、環境問題への理解を深めるとともに、多様な視点を知ることができた。

これらの授業を通して、言語スキルだけでなく、異なる文化背景を持つ学生との意見交換により、物事を多角的に捉える姿勢も身につけることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の発音や文法に自信がなく、間違えることを恐れて英語で話すことに抵抗を感じていた。しかし、単語当てゲームや意見を述べる活動を繰り返す中で、完璧な英語でなくても相手に伝えようとする姿勢が大切だと気づいた。その結果、発音が悪くてもまずは話してみようと思えるようになり、英語で話すことへの抵抗がなくなった。

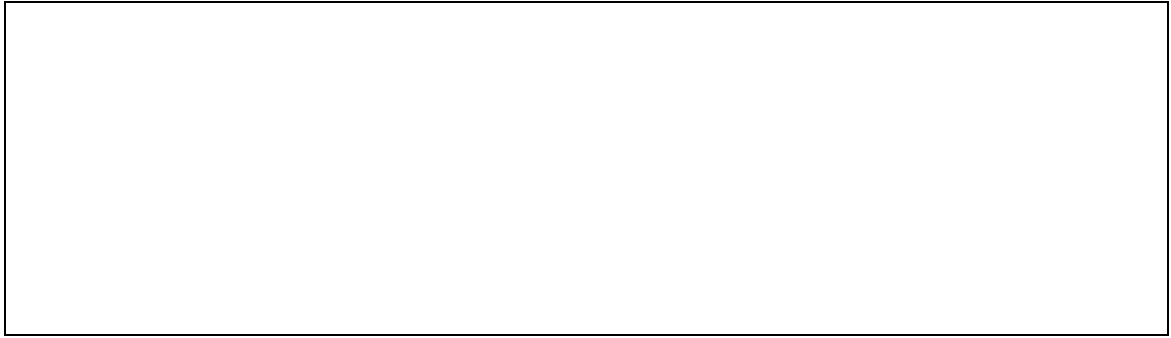
また、授業を通して自分の語彙の偏りにも気づいた。これまでは試験に出るような単語を中心に学んできたため、身の回りの物を表す名詞を覚える機会が少なかった。しかし、実際の生活や会話では、ザルのような身近な物の名前を知っていることのほうが役に立つ場面が多い。この経験から、日常生活に密着した語彙こそ学ぶ必要があると感じるようになった。今後は、間違いを恐れずに英語を使う姿勢を大切にしながら、身近な語彙を増やし、より自然に伝えられる英語力を身につけていきたい。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

留学で身につけた、間違いを恐れずにまず話してみる姿勢を、帰国後も維持していきたい。英語力は使わなければすぐに衰えてしまうため、日本にいても英語を話す機会を自ら作ることが重要だと考えている。

実際に現在は、留学生と一緒に学食で食事をするなど、日常的に国際交流ができる機会を積極的に作っている。今後は、留学生との交流イベントへの参加やオンライン英会話を継続し、英語を使う場面をさらに増やしていきたい。また、大学の授業でも積極的に発言し、自分の考えを相手に伝える力を磨いていく。

こうした交流の中で身近な語彙も意識的に増やししながら、留学で得た学びを今後の学業に生かしていきたい。



YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	Y.H	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 8 月 12 日～2026 年 9 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

月曜日から木曜日の 1 時間目は、Reading & Writing の授業だった。基本的には教科書に沿って学習を進め、文章を読んで内容を読み取ったり、複数の文章を比較したり、自分で文章を作成したりした。授業ではグループワークやペアワークも多く、互いに答えを確認しながら学習することができた。また、時間が余った際にはミニゲームを行うこともあった。グループに分かれてクイズのポイントを競ったり、ペアで文法を確認しながら問題を出し合ったりするなど、英語の学習にゲームを取り入れていたため、楽しみながら授業に取り組むことができた。内容は、PE で扱う内容と同程度か、それよりも少し簡単に感じた。課題についても授業内で完結することが多く、宿題が出た場合も授業で学んだ内容の復習が中心だったため、負担に感じることは特になかった。

2 時間目は Speaking & Listening の授業だった。担当の先生が授業中のスマートフォンの使用を禁止していたため、授業中はスマートフォンに頼らず、自分で考えることを意識することができた。最初に簡単な日常会話を行い、その後、TED Talk などの短い英語の映像を見て、内容を聞き取りながら確認をするような流れだった。また、授業の最後の 15 分間には単語クイズを行い、単語の意味を覚えるだけでなく、相手に英語で説明することで Speaking の力も鍛えることができたと思う。課題は週に 1 回程度で、トピックについて英語で話している動画を提出したり、映像を見て質問に答えたりするものであった。こちらも授業内容の復習が中心で、負担は大きくなかった。

金曜日は 1・2 限を通して大人数で授業を行っていた。健康や睡眠など、身近なテーマについて映像を見たり、グループでディスカッションを行った。普段より多くの人と英語で話す機会があり、Speaking の力を実践的に伸ばすことができたと感じた。

全体的に自分のレベルに合った授業で、無理なく英語力を鍛えることができるプログラムになっていると思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

英語の勉強としては、教科書で学ぶような文法だけではなく、より自然な文法表現や実際の会話で使われる話し言葉を知ることができた。特に Speaking の授業では、同じフレーズを何度も繰り返し練習することで、表現を自然に使えるようになり、少しずつ定着させることができたと思う。また、Listening では、TED Talk などの映像を通して、実際に英語が使われている場面を聞くことで、教科書だけでは学ぶことのできない英語の聞き取り方を学ぶことができた。また、英語に触れることが増える事で「これはどういう意味の表現なのだろう」と自分からわからない部分を調べたり、聞いたりして英語の知識を増やそうという意識が高まった気がする。

さらに、授業全体を通して、分からないことや間違いを恐れず、まずは実際にトライしてみることの大切さを学んだ。少人数クラスでの授業が多く、間違っても大丈夫という雰囲気があったため、積極的に発言したり、英語を使って自分の考えを伝えたりすることができた。最初は間違えることに不安を感じていたが、実際に話してみることで新しい表現を学ぶことができ、間違いも英語力を伸ばすための大切な経験だと感じるようになった。この経験を通して、英語の知識だけでなく、積極的に行動する姿勢も身につけることができたと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

私は特に Speaking が苦手で、留学前は英語を使って人と話すことに抵抗があった。間違った英語を話してしまうことへの不安があり、頭の中で文章を考えてから話そうとしてしまうことも多かったと思う。しかし、授業を通して、必ずしも最初から正しい文法で完璧な文章を話す必要はなく、分からない場合でも、自分が知っている単語を使ってまずは口に出してみることが大切だと学んだ。実際に話してみることで、先生から正しい表現を教えていただくことができ、自分が使える英語表現も少しずつ増えたように感じる。また、日本人の参加者が多く、つい日本語で話してしまう場面もあったが、少人数のクラスで自分の英語力に合った授業を受けることができたため、無理なく英語を使う機会を増やすことができた。また、ホームステイを経験したことも相まって留学前と比べて、英語を話すことへの抵抗感が減り、間違いを恐れずにまず話してみようと思えるようになったことが、大きな変化だと感じている。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学経験を通して、何事もまずは挑戦し、自ら行動に移すことの大切さを学んだ。また、異なる国籍の人々との交流を通して、自分とは異なる考え方や価値観に触れることができ、自分の視野を広げる貴重な経験となった。今後も英語学習を継続し、今回身につけた「英語で話すこと」の積極性をさらに伸ばしていきたい。また、機会があれば長期留学にも挑戦したいと考えている。留学前は 1 か月間の海外生活でも長いと感じていたが、実際にはあっという間に過ぎたため、今後は長期留学も視野に入れ話す英語を身につけられたらと考えている。さらに、これから始まるゼミでの学習においても、今回の経験を生かして国際的な視点を取り入れ、さまざまな角度から物事を捉えていきたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	J.S	学部・学科	データサイエンス学部データサイエンス学科
学 年	1 年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	夏季短期語学研修サンディエゴ州立大学		
期 間	2026 年 8 月 12 日～2026 年 9 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

今回の語学研修は、学生ビザではなく、ESTA での渡航となったため、パートタイムとなり、授業は平日の午前中のみだった。内容は、月曜から木曜の 1 限がリーディング・ライティングのクラス、月・水曜 2 限がリスニング・スピーキングのクラス、火・木曜 2 限がプレゼンテーションのクラス、金曜は English in action という実践を意識したクラスだった。金曜以外のクラスはレベル (1～8) によるクラス分けがあり、自分はレベル 6 だったので、一番レベルが高いクラス (レベル 6～8) に参加した。授業時間は 1 コマ 75 分だった。

リーディング・ライティングの授業では、実践を中心に、与えられる課題に授業内で取り組む形だった。特に自由英作文の練習が多く、文量もある程度あったため、苦勞することもあったが、いい経験ができた。また、読み書きしたことをもとにしたディスカッションもよく行った。なお、レベル 5 以下のクラスでは文法解説もあると友人から聞いたが、自分のクラスでは文法の解説はなく、必要なときに質問する形式だった。

リスニング・スピーキングのクラスはディスカッションを中心に、米国の大学文化について学習した。米国と日本、さらに他の留学生の出身国の違いを感じることができ、国際理解という面ではこのクラスが一番面白かった。最後の週にはディベートを行った。

プレゼンテーションのクラスでは 1 か月かけて、グループでのプレゼンテーションを作成し、最後の週に発表し、評価という形だった。途中 2 週間担当のインストラクターが不在となり、代理の先生による授業となったため、最後の発表をどのようにすればいいかわからず、不安を感じる場面はあったが、最終発表ではほかの留学生とも協力し、英語でのプレゼンテーションをやり遂げることができた。

金曜日の実践の授業はディスカッションやフィールドワーク中心の内容だったが、取り扱われるテーマがかなり簡単な内容で、あまり面白さは感じなかった。それでも、実際に大学内でほかの学生にインタビューをするなど、新しい経験をすることはできたように感じている。総合的に、レベルが高いクラスではかなり実践よりの内容で、課題も少し多かったが、英語力を伸ばせる内容だったと感じている。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

どの授業でも新しい知識を教える講義というよりは実際に英語を活用する演習的な内容が中心だったため、新しく得た知識そのものはあまり多くはなかったように感じている。それでも、リーディングやリスニングの授業ではこれまで触れる機会の少なかった熟語や会話表現を中心とした語彙を学ぶことができ、より自然な英語を理解するための基礎が広がったと感じた。さらに、ライティングの授業では構文の作り方や段落構成について、日本で今まで習っていたものとは少し異なるアプローチを学び、自分の英作文能力をより一層高められたと思う。また、プレゼンテーションのクラスでは、プレゼンテーションの構成、特に冒頭で聞き手の興味を引く"hook"の作り方についてかなり丁寧に教わった。高校までの英語教育で本格的な英語のプレゼンテーションをする機会は多くはなかったので、この学びは特に印象に残り、今後の発表やコミュニケーションにも活かせる重要な経験となったと思う。実践の授業 English in Action では、授業で扱われるテーマ、内容自体は簡単で、新たな知識という感じではなかったが、テーマに関連する語彙表現を新たに学ぶことができ、それらを実際の会話で使う練習ができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

留学に行って、現地で授業を受ける前は自分の英語力、特にスピーキング能力に不安を感じていたが、実際に現地で授業を受け、他の留学生とディスカッションや質問をしていく中で、自分が思っている以上に相手に自分の言いたいことを伝えることができていたと感じた。また、日々の授業や他の人との会話から新しい表現を学び、自分の会話に役立てることができたことも成長だと思う。

さらに、現地では最初に友達になった人以外は当然知らない人ばかりで、普段の授業やイベント、またはレクリエーション施設でたまたま出会った人などに話しかけてもらったり、自分から話しかけたりして会話をした経験から自分のコミュニケーション能力そのものも向上したと感じている。留学に行く前はどうしても他の人に対して一步引いてしまうようなところもあったが、陽気で社交的な人が多く、誰とでも場を楽しもうとするアメリカの人々と接して、人間関係の築き方を広げられたように思う。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通して、語学力の向上だけでなく、自分と異なる価値観・文化をもった人との関わり方や今までと違った人間関係の築き方を身につけられたと考えている。今後も海外留学・旅行や国際交流事業への参加を考えているので、今回身につけた力を発揮し、より一層国際理解や国際的なコミュニケーション能力を高め、大学生としての国際貢献をリードしていけるような人物を目指していきたいと思う。また、所属するデータサイエンス学部でも、今回得た語学力や国際的な知見を生かし、幅広い視野や新たな観点を持って勉強すると共に、将来的には語学力を生かした世界中の研究者との交流も目指し、今後もデータサイエンスの学修を進めていきたい。